



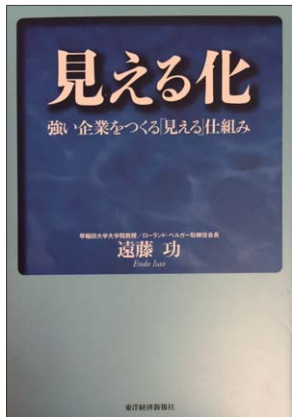
この一冊!

経営コンサルタントが
👍 オススメする宿澤経営情報事務所 所長 宿澤 直正
しゆくざわ なおまさ

[発行] 東洋経済新報社

[著者] 遠藤 功

[価格] 1,728円(税込)



「見える化」～強い企業をつくる「見える」仕組み～

「見える化」で見えてきた必要な情報を活用する

経営に情報を活用する場合、すぐに「IT」というキーワードが思い浮かぶのではないのでしょうか？しかし「IT」とは単なる道具です。道具を使いこなすには「何にその道具を使うのか」という目的が明確でないと、道具に振り回されてしまうことがあります。

今回ご紹介する「情報」に関する本は、ほぼ10年前に発行された本です。「IT」の進歩は早く、それに追いつくべく本もさまざまのスピードで次から次へと出版されています。しかし、情報活用における大切なことはそれほど変わっていません。そんな大切なことに気付かせてくれる本です。

私はコンサルの際、常にこの本に書かれた「見える化」を意識しています。それは企業における様々な見えない情報を「見える」ようにし、必要な情報が目に飛び込んでくる状態をつくることです。自らの意識で情報を「見る」のと、自然に「見える」のでは、問題に対す

る意識やスピードが劇的に変わることを体感しています。

「経営環境の激しい変化」や「ITの急激な進歩」などによって、企業は情報過多の状態に陥っています。情報の重要性は増しているにもかかわらず、情報に埋没してしまい、かえって見えなくなってしまうのです。そうならないためにも、今の自分たちに必要な情報は何か？それをどう使いこなせばいいのか(見える化するのか)？など、情報と向き合わないといけなくなっています。

その実現に向けてのヒントが、必要な情報が目に飛び込んでくる「見える化」です。「情報を『見える』とする意思」と「情報を『見える』ようにする知恵」を検討する過程で自分たちの情報活用を考えることができます。

このような情報活用における大切なことを10年前に教えてくれた本ですが、今回、この原稿を執筆するにあたって、最新の

「IT活用」を念頭においてまた読み返してみました。

すると、「IT」の進歩により、当時よりも進化した「見える化」の実現手段を考えることができました。道具は時代とともに変わります。しかしその使い方の根本は大きくは変わらないのかもしれない。それを見失わないようにしたいものです。

Profile

中小企業診断士、上級シスアド、
産業カウンセラー
名古屋市新事業支援センターマネージャー、
愛知工業大学経営学部非常勤講師

SE出身の経験を活かし、中小企業の情報化戦略、インターネットのビジネス活用、クラウドサービスの利用、スマホ・タブレットを活用した効率化、情報共有の実現といった支援を行ない「人を生かすIT」を目指す。また、自身の経験から産業カウンセラーを取得し、中小企業経営者の頭のモヤモヤを「見える化」し、前に進むお手伝いができたら・・・願っている。

